

千葉県子どもの読書活動推進計画（第三次）進捗状況について

1 計画の概要

- (1) 計画の性格 ア. 子どもの読書活動を全県的に推進するための手引
イ. 「読書県『ちば』」を目指す設計図
- (2) 計画期間 平成27年度からおおむね5か年
- (3) 基本理念 子どもと本をつなぐ・子どもの本でつながる 読書県「ちば」の推進
- (4) 基本方針 ア. 読書に親しむ機会の充実
イ. 読書環境の整備
ウ. 普及啓発活動の推進
- (5) 特 色 「家庭・地域」「学校等」「図書館等」「行政」のそれぞれの役割と必要な取組を明確にした

2 進捗状況

(1) 概 要

ア 主な指標の状況

○ブックスタート事業を実施する市町村が100%となり、目標値を達成した。

※H20年度 60.7%⇒H26年度 88.9%⇒H29年度 100%

○市町村における子どもの読書活動推進体制の整備を図るためには、市町村の推進計画は必要不可欠なものであるが、策定率は伸びを見せており、今後も伸びが見込まれている。

※市 H26年度 70.3%⇒H28年度 75.7%⇒H29年度 83.8%

※町村 H26年度 23.5%⇒H28年度 23.5%⇒H29年度 29.4%

○読書の好きな子どもの割合は、小学6年生・中学3年生ともに全国平均よりは高いものの県内の経年経過を見ると、小学6年生には伸びが見られるが、中学生3年生及び高校2年生は下降している。

読書好きの子供の割合

全国学力・学習状況調査より

小学6年生 H25年度 72.6%⇒H26年度 73.4%⇒H29年度 74.6%

中学3年生 H25年度 75.3%⇒H28年度 74.9%⇒H29年度 73.6%

高校2年生 H25年度 77.8%⇒H29年度 73.1%（生涯学習課調べ）

・H25年度とH26年度に小学6年生であった学年が中学3年生になった際の割合を比較した結果、それぞれポイントが上昇しており、長期的に見た場合、成果が見られる。

○1日あたり読書を全くしないという児童・生徒の割合が横ばい・上昇しており、目標値と隔たりが見られる。

小学6年生 H26年度 18.8%⇒H28年度 20.1%⇒H29年度 20.1%

中学3年生 H26年度 29.0%⇒H28年度 32.5%⇒H29年度 31.5%

高校2年生 H25年度 40.5%⇒H29年度 45.9% (生涯学習課調べ)

イ 主な成果と課題

市町村における子どもの読書活動推進計画の策定率が経年で上昇していることに加え、本年度中及び次年度に計画策定を予定している市町村もあるなど、子どもの読書活動推進に向けた大きな方向性が示されつつある。

加えて、ブックスタート事業を実施する市町村が100%となるなどして、乳幼児期における本を通じた親子のふれ合いの大切さが広く理解される環境が整うなど、市町村における読書環境が整備されつつあるが、町村における計画の策定率は、他県に比べ低率で推移している。

一方、1日あたり読書を全くしない児童・生徒の割合については、全国平均と比べ少ないものの、本計画の目標値とは大きく隔たりがあり、子どもが本に触れる機会の一層の提供や、読書意欲を高める取組の充実などを図っていくことが課題である。

ウ 今後の対応

(ア) 研修会等の充実

引き続き、これまでの取組を充実することに加え、研修会等では、具体的に成功している実際の取り組み例を当事者に発表してもらうなど、実例を示すなどして、より実効性のあるものになるよう努めていく。

(イ) 県立図書館の機能充実

子どもの読書活動の推進にあたっては、学校や家庭の取組の他、図書館の取組も大変重要である。本年1月には、「千葉県立図書館基本構想」を策定し、県立図書館の機能強化の方向性を定めたところである。今後、県内図書館の中枢として、市町村立図書館の支援や、公立図書館と学校図書館との連携の強化など、県立図書館の「子どもの読書活動推進センター」としての機能強化をはかり、子どもの読書活動をさらに進めていく。

(ウ)他県との連携

本県の課題については、他県も課題として位置づけていることが多い。特に、市町村における子どもの読書活動推進計画の策定状況や、本を読まない子ども達の増加などについては、課題としてあげる都道府県が多い。これらの課題に取り組み、成果を上げている自治体もあるところから、今後は関東ブロックや全国の子どもの読書活動主管課長会議等を通じて、他県の先進事例を取り入れるなどして、問題の解消に努めていく。

(2) 指標の達成状況

目 標	評価指標	策定時 (H25)		H26	H27	H28	H29	目標 (H31)
		小6	72.6%	73.4%	72.5%	75.2%	74.6%	
子どもの読書活動現状(読書離れ)を改善する。	読書の好きな子どもの割合	中3	75.3%	74.4%	72.9%	74.5%	73.6%	80%
		高2	77.8%	—	—	—	73.1%	80%
		小6	11.5% (20.5%)	18.8%	19.3%	20.1%	20.1%	3%
	不読率(1か月に1冊も本を読まない児童・生徒)の割合	中3	18.6% (31.4%)	29.0%	30.2%	32.5%	31.5%	12%
		高2	40.5%	—	—	—	45.9%	25%
		小6	—	—	—	—	—	—
市町村における子どもの読書活動推進体制の整備を支援し、地域格差を是正する。	市町村の子ども読書活動推進計画策定率	市	70.3%	70.3%	70.3%	75.7%		100%
		町村	17.6%	23.5%	23.5%	23.5%		70%
公立図書館、学校図書館の機能及び連携・協力の強化を図る。	学校図書館図書標準を達成している学校の割合	小 (H24調査) 49.5%	53.6%	—	小 66.5%	—	55%	
	図書館等と連携している学校の割合	中 41.8%	41.2%	—	中 47.4%	—	100%	
乳幼児期における子どもの読書活動を一層推進する。	ブックスタート実施市町村の割合	88.9%	88.9%	90.7%	94.4%	100%	100%	
子どもと本をつなぐネットワーク活動を構築する。	市町村立図書館等におけるボランティアの登録数	2,067人	2116人	2349人	2380人		2,500人	
	ボランティアと連携・協力している学校の割合	(H24調査) 56.9%	56.0%	62.7%	59.7%		68%	
	図書館等と連携している学校の割合【再掲】	(H24調査) 67.0%	70.5%	69.1%	71.1%		100%	
	図書館あるいは教育委員会が加わり、学校関係者と子どもの読書の推進について協議する機会がある市町村の割合	42.6%	—	—	—	46.3%	50%	



→ 年度末調査であるため、新しい数値は平成30年度に示される。

→ 文科省による隔年調査(対象:公立小・中学校)

◎不読率(1か月に1冊も本を読まない児童・生徒)の割合について

- ・推移を図るものとして、全国学力・学習状況調査の質問紙調査を活用することとした。
- ・「1か月に、何冊くらい本を読みますか」という質問項目が、26年度の調査から削除されてしまった。
- ・26年度からは、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の問いに対する、「全くしない」を回答した児童・生徒の割合を充てることにした。
- ・表中の策定時(H25)の中の()の数字は、H26からの調査項目と同様なものの回答。

(3) 各目標の状況

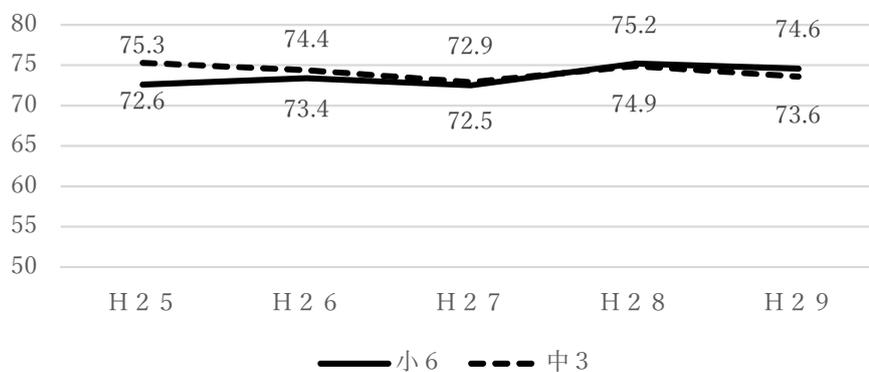
目標 1	評価指標	状況
子どもの読書活動の現状（読書離れ）を改善する。	読書の好きな子どもの割合	・それぞれの目標値を 80%に設定しているが、ここ数年、数値は 70%台中盤で推移するにとどまっている。ただし、小・中ともに全国平均値よりは高い数値（小+0.3 ポイント、中+3.7）を示している。
	不読率（1か月に1冊も本を読まない児童・生徒）の割合	・上記同様、数値は横ばいである。学年が上がるごとに不読率が上がっていくという全国的な傾向が、千葉県においてもあてはまる。小・中ともに全国平均値より良い数値（小+0.4、中+4.1）を示している。

【 今後の取組方針 】

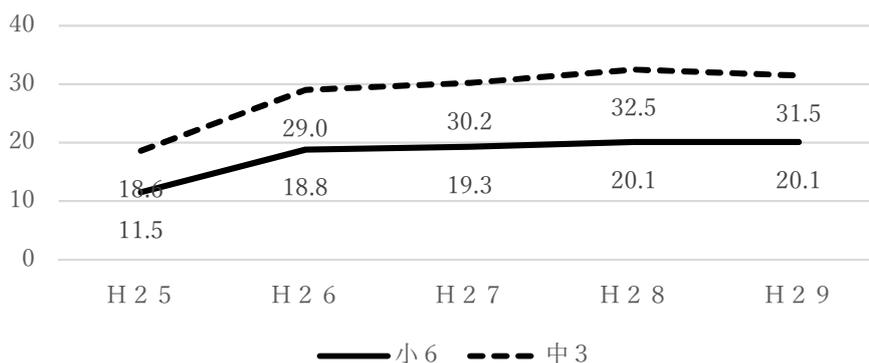
本県は、読書を習慣づける目的で、始業時間前に読書の時間を設ける「朝の読書運動」が生まれた県である。今後も学校図書室の有効な活用や公立図書館との連携を進め、読書習慣の啓発や読書人口の底上げを図っていく。

また、毎年度実施している「子ども読書の集い」については、子どもが読書に親しむ機会の提供といった視点から有効であり、参加者の拡大を図るなど、今後も充実に努めていく。

読書の好きな子どもの割合



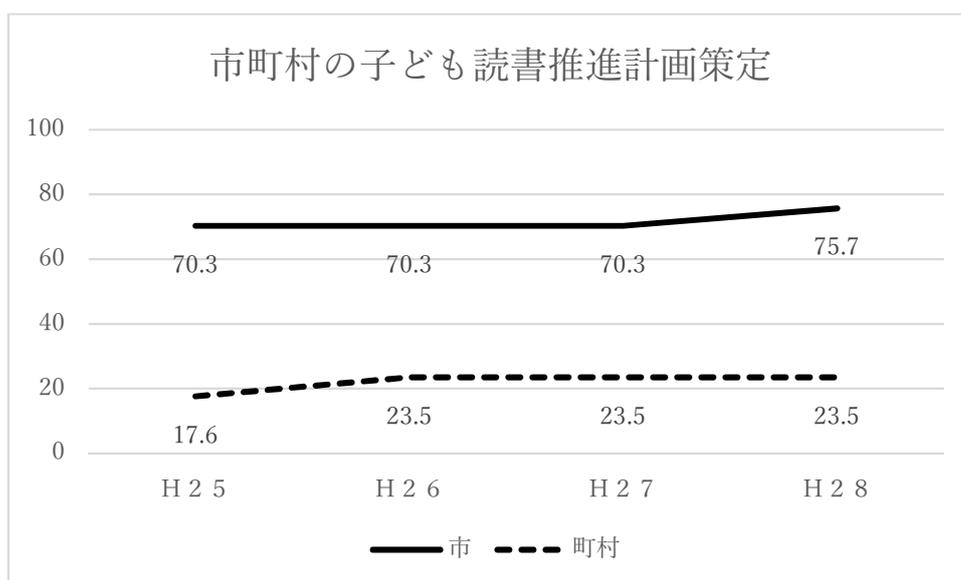
不読率の割合



目標 2	評価指標	状況
市町村における子どもの読書活動推進体制の整備を支援し、地域格差を是正する。	市町村の子ども読書活動推進計画策定率	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度は市が 75.7%・町村が 23.5%であり、目標値と隔たりがあるが、今年度中に新たに 3 市 1 町が策定するべく、準備を進めている。 それらの数字を加えると、市が 83.8%、町村が 29.4%となるが、目標値はそれぞれ 100%と 70%としているので、今後も整備を進めていかねばならない。

【 今後の取組方針 】

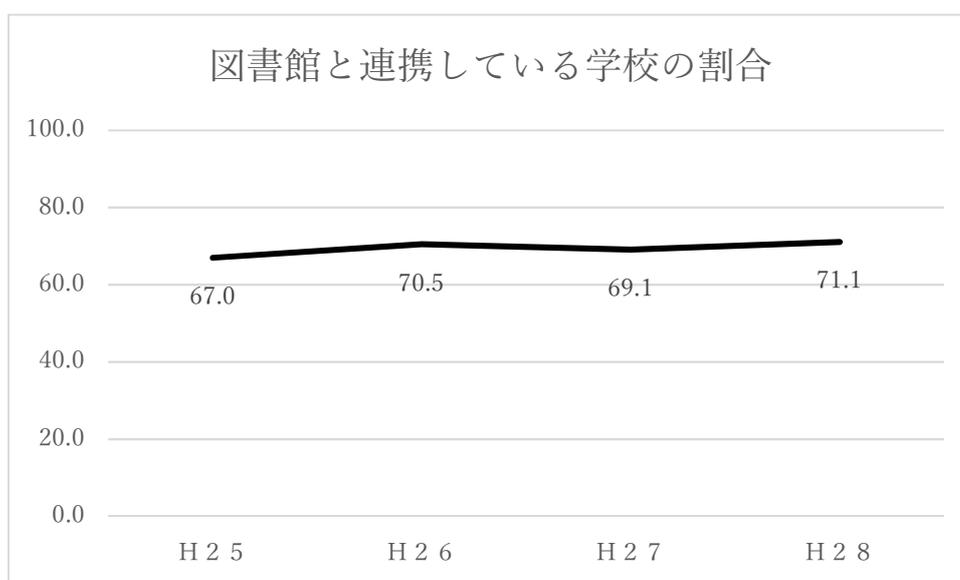
来年度中にも新たに 2 市が策定を予定しており、ここ数年、推進計画を策定する市が増えてきている。未策定市町村と、公立図書館の未設置市町村の関係は結びついている傾向もあり、今後も主管課長会議をはじめ、各種会議で啓発を続けていくとともに、県立図書館との連携を図り、未策定市町村からの問合せ・相談に、先進事例や推進計画のひな形を紹介する等、応えていく。



目標 3	評価指標	状況
図書館等、学校図書館の機能及び連携・協力の強化を図る。	学校図書館図書標準を達成している学校の割合	・小学校にあっては、既に目標値を達成している。中学校についても年々上昇しており、学校図書館の充実は進んできていると言える。
	図書館等と連携している学校の割合	・目標値は 100%を目指しているが、現状は微増である。校種ごとの差異が見られる。

【 今後の取組方針 】

学校図書館の活性化や子どもの読書活動の充実・推進を図るために、公立図書館と学校図書館の効果的な連携の在り方について考えることを目的として「公立図書館と学校の連携を図るための研修会」を実施している。図書館等との連携率には校種ごとの差異が大きく見られることから、今後は校種ごとの課題を明らかにし、その改善に向けたアプローチを進めていく必要がある。効果的な連携のあり方や、連携・協力を行うことの意義とその必要性を重視した内容で構成し、今後の機能強化に役立てられるようにする。

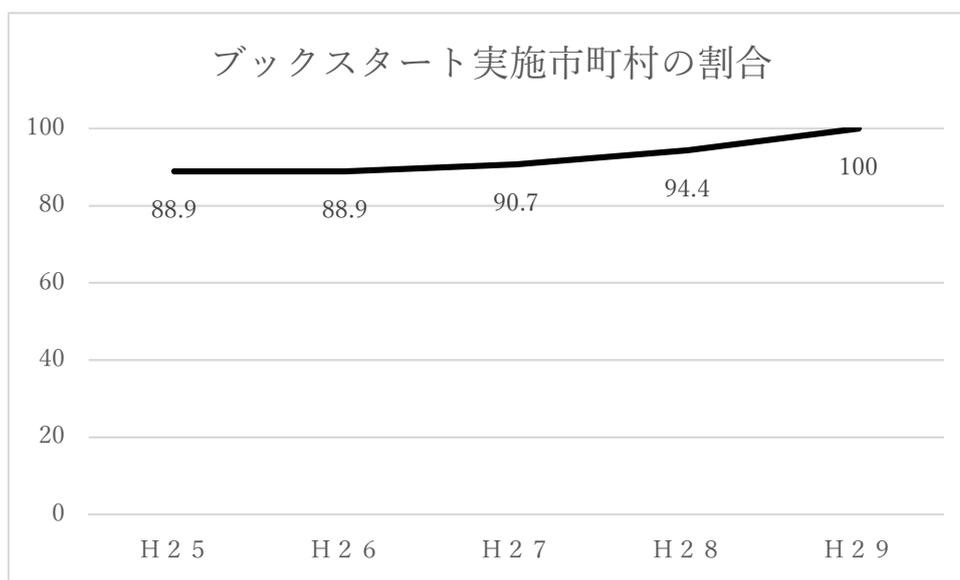


※学校図書館図書標準 公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書数の標準として、学校種・学級数に応じ設定されている。図書標準。

目標 4	評価指標	状況
乳幼児期における子どもの読書活動を一層推進する。	ブックスタート実施市町村の割合	・今年度、100%の実施となった。乳幼児健診などの機会に、赤ちゃん和父母者が絵本を介して触れ合う大切さを伝える活動が定着したと言える。

【 今後の取組方針 】

乳幼児期の読み聞かせ活動は、とても有意義な場であると考えことから、引き続き、赤ちゃん和父母者が絵本を介して触れ合う大切さを伝える活動として、根づかせていく。さらに、子どもの読書活動の意義と重要性をより一層啓発・推進するため、推薦図書を紹介リーフレットの配付対象年齢を3歳から0歳に引き下げ、今後も継続していく。



目標 5	評価指標	状況
子どもと本をつなぐネットワーク活動を構築する。	市町村立図書館等におけるボランティアの登録者数	・目標値に向かって、毎年着実に伸びてきている。
	ボランティアと連携・協力している学校の割合	・数値はやや横ばいとなっている。校種ごとの差異が見られる。新たな担い手の増加や人材の育成に課題がある。
	図書館あるいは教育委員会が加わり、学校関係者と子どもの読書の推進について協議する機会がある市町村の割合	・前回調査時と比較して、+3.7ポイントの伸びが見られた。

【 今後の取組方針 】

図書館等の登録ボランティアは、読み聞かせやそのやり方の指導、本の紹介等により子どもに本の楽しさを伝え、子どもの豊かな読書活動を実現させていくのに欠かせない存在である。県としては、公立図書館を持たない市町村に焦点を当てながら、読み聞かせボランティア入門講座を開催し、子ども読書に携わる人材の育成を図っていく。

